現代人形劇作品集

No. 2

片岡　昌

現代人形劇作品集　No. 2

1974年12月25日発行

著者　片岡　昌

発行　人形劇団ひとみ座

川崎市中原区井田869

Tel　044－777－2222

ひとみ座西部本社

熊本市清水町万石590－24

Tel　0963－44－8832

印刷　ひとみ座印刷局

製本　大竹製本

© 1974　乱丁本・落丁本はお取替します。

昔噺
かちかち山

現代人形劇作品集

No. 2　片岡　昌

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

表紙・扉装丁　片岡　昌

本文カット　片岡　昌

出てくる人

語り手

爺さま

婆さま

狸

兎

むかし
むがし
あったとさ
じさまと
ばさまが
あったとさ
むかしむかしの
ものがたり

語り手出てくる　太鼓をたたく。

語り手　昔々

かげの声　（エコーがかかりだんだん小さく）

昔々　昔々　昔々

語り手　昔々　あつたとな。

かげの声　（エコーがかかり）昔々　あつたとな。

語り手　遠いお山のその奥に　爺さまと　婆さまがあつたとな。

爺さま畑で仕事すりや　山に住んどる古狸　いたずら狸の悪狸　爺さまの仕事のじやまをする　爺さま畑に種まけば　あとからほじくり返したり　爺さまの大根ようでけりや　狸がみんなもつていく　爺さまほんに困りぬき　思案のすえにわなかけた。

一軒の家出てきてひらくと　爺さまと婆さまが出てくる。

爺さま　ばあさんや　そんなら俺あ　畑へ行ってくるて。

婆さま　あいあい　いってらつしやいましな　気つけてな　またあの悪狸に化かされんようにな。

爺さま　はんにまあ　あの悪狸め　わるさしよつてやりきれんわ　だがなゆんべ　わなかけとつたでな　もしかしたらけさはかかつとるかもしれんでな　こりやたのしみじやわ。

婆さま　かかつとつたらえぇにな　久しぶりに狸汁じや　アツハハハハ。

爺さま　アツハハハ。

語り手　とらぬ狸の皮算用　爺さまは山へ仕事しに　婆さまは家で餅をつく　あ　ぺつたらこ　あ　ぺつたらぺつたらぺつたらこ

餅をつく婆さま。

語り手　あ　ぺつたらこ　あ　ぺつたらこ　あ　ぺつたらぺつたらぺつたらこ　婆さまの年じやはかどらぬ　一つきついては息いれて　二つきついては腰さする　あ　ぺつたらぺつたら　ぺつたらこ。

婆さま　あゝ　年じやけんのう　餅をつくのも難儀なこつちや　これでも若いときにや　男にも負けんかつたんじやがのう

語り手　あ　ぺつたら　ぺつたら　ぺつたらこ　婆さま臼で餅をつく　そこへ爺さまのでかい声。

狸をかついだ爺さま　外からころがりこんでくる。

爺さま　婆さまよ　婆さまよ　婆さまよ　狸じや　狸じや　かかりおつたぞよ　狸奴が　ほーれ　ま　えらゝでかい狸だろうが。

婆さま　はれほれ　まなんとえらゝでかい狸だことまー。

爺さま　どうじやい　ま　これで悪さするもんもいなくなつたちゆうもんじや　今晩はま久しぶりに狸汁じやの。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

婆さま　えーえ　ほんに久しぶりに狸汁じゃ　それにこの狸の毛並みのいいことなあ　じようずに皮はいで　爺さまのちやんちやんこ作るべい　これからの畑仕事はひえるでなあ。

爺さま　なんの　婆さまのちやんちやんこにしたらええど　水仕事はひえるでなあ。

婆さま　ほだら　二人分作るべいか　そんならよつぽとじようずに皮　はがねばな。（笑う）

爺さま（笑つて）ほんなら　また一仕事ぶつてくべい　いたずらするもんがなくなつたでなあ　せいだしてくんべいなあ　狸汁たのしみに帰つてくるでな。

婆さま　ああ　たのしみにな　やつこい餅入れとくからな　あつたかいの食わせつからな。

爺さま　狸をつるして出ていく。

語り手　とらぬ狸の皮算用　とつた狸の胸算用　婆さま家で餅をつく　あ　ぺつたらこ　あぺつたらこ　ぺつたら　ぺつたら　ぺつたらこ。

狸　婆さまよ　婆さまよ‥‥　つるされてるも楽ではねえな。

婆さま　悪さこくからよ　何んもしなきやつるされることもなかんべえによ。

狸　婆さまも難儀なこっちゃの　なんぼ餅つきなさるかね。

婆さま　三臼じゃ。

狸　やあ　気の毒なこんだなあ　ほんならおらも手伝うか　この縄ちよつくらといてくんろ。

婆さま　あほぬかせ　とけば逃げるにきまっとるでねえか　逃げりやおら狸汁もくえねえどちゃんちゃんこも作れねえど　おら爺さまにこっぴどくおこられっからなあ。

語り手　婆さま家で餅をつく　あ　ぺったらこ　あ　ぺったらこ　あ　ぺったら　ぺったらぺったらこ　狸は上からぶうらりこ涙流して泣きくさる。

狸　おーい　おいおいおい　おい　おーい　おい　おい　おい　おい。

婆さま　なにをいまさら泣きくさる　泣いても縄といちややんねえぞ。

狸　俺あ　悪狸だでよ　俺は古狸だでよ　狸汁にされてもちっともかまわね　ちゃんちゃんこにされてもあったりまえだでよ　悪さいっぱいして爺さま困らしたもんなあ。

婆さま　いい覚悟だ　ほんなら泣くことあなかんべによ。

狸　俺あかまわね　だどもなあ・・・　おーい　おい　おい　おい。

婆さま　だども何だ？

狸　だども・・・俺あ子狸が気がかりでな。

婆さま　ま　子供がいるだか。

狸　まだ目かあいたばかりのな　俺らの口からいうにゃおかしいが　まんまるちい目してなあ　可愛いい子狸だ。

婆さま　何人いるだか。

狸　七匹だす　腹すかしてまつてるだよ　俺あ帰らねえと　うえ死にしちまうだ　俺あ死んでもいいだが　子狸のこと思うと　気がかりで死んでも死にきれねえだよ。

語り手　婆さま鼻をすゝりあげ　涙さそわれいうことにゃ　あいうことにゃ。

婆さま　可愛想にな　お前様は悪狸だども　子供に罪はないもんなあ　よし　ほだらきようのところは許してやるべい。

狸　はんとかや！

婆さま　ほんにほんとだとも　だが約束すつか。

狸　助けてくださるちゆうなら　なんでも約束すつから。

婆さま　ほならな　爺さまの畑あらさねえ　この餅つき残り全部する。

狸　そんなこつか　そんなこつてよけりやしつかり約束すつからよ。

婆さま　ほならといてやるべえの　といてやるべえの　かえそうに　いたかつぺえな　かえ

そうにな　（縄をときながら）さ　ええぞ　どうした。

狸　しびりきれた。

婆さま　そうじゃろう　そうじゃろ。

狸　さ　約束じゃ　餅つくべい　（きねとり）はれ　どすん　はれ　どすん　どうじゃうまいもんじゃろ。

婆さま　ほんにうまいもんじゃ。

狸　婆さま　見てねえで　餅とってくれ。

婆さま　そうじゃ　そうじゃ　ほんにそうじゃ　ささ。

狸　どすん　婆さまもっと気いいれてとんなせい。

婆さま　こうか。

狸　もっとしっかり。

婆さま　こうか。（のりだす）

狸　そうじゃ　そこじゃ。

婆さまの頭にうちおろすきね。

かげの声　（合唱）なんまいだなんまいだ　なんまいだなんまいだ——（つゞく

語り手　（声高に）諸行無情　諸行無情　諸行無情——

お経をバックに。

狸　婆さまよ　かええそうにな　おらにや子供なんかいねえよ　おらおす狸だどもな。

狸　婆さまの着物をはいで着る　婆さまの面をつけて　ちよつと婆々ぶりをやつてみる　セツトとじて外になる　お経のバツクきえる。

語り手　何も知らない爺さまは　畑仕事もいそいそと　しまつて帰る道すがら、思うは狸のことばかり。

爺さまやつてくる。

爺さま　婆さまよ　今帰つたど。

家開いて。

婆さま　はれほれ　ま　お早いお帰りだこと。

爺さま　狸はたけてるかの。

婆さま　でけてなくてどうするもんか　さつきから　ことことことようたけて　くつてくれくつてくれつていうとるわ。

爺さま　そりやよかつた　きようはの　仕事してても狸のことが気になつて　くわの方がおるすになつてしまうてな。

婆さま　そりやそうじや　ひさしぶりのごちそうじやけんな　はれ　ささ　めしあがれ。

（おわんを出す）

爺さま　うまいの　うまいの

婆さま　そりや　うまいはずじや　この婆が腕によりかけて作つた汁じや。

爺さま　おかわりくんないかの。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com